



平成30年度 FCP若手フォーラム

～食の安全・信頼の観点から企業行動を考える～

趣旨・概要

平成30年 7月 6日

農林水産省
食料産業局食品製造課食品企業行動室
フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

- 消費者が食品に不安を抱くような事案は、引き続き起きていますが、食の安全・信頼への取組は、今や一企業だけの対応にとどまらず、フードチェーン全体での取組が一層求められています。
- また、食の安全・信頼への取組は、食品を取り扱う事業者にとって終わりのない取組であり、次代を担う若手社員に対し、F C P の基本的な考え方や食の安全・信頼について学ぶ機会を設け、受け継いでいくことで、食品関係事業者の人材育成や相互の関係づくりが強化されていくと考えます。
- そこで、リスクマネジメントの手法、規格や事業者の食の安全・信頼への取組事例を学び、参加者 1 人 1 人が食の安全・信頼の観点から企業行動を考えるとともに、今後の取組への気付きを得ることを目的として、「若手フォーラム」を開催します。

進め方①

(1) 内容

食の安全・信頼に係る事前学習をしながら、6～8名のグループの中で企業行動について議論し、グループで「協働の着眼点」について考えることを通じて、企業行動について理解を深めるとともに、人的つながりを構築します。

- FCP活動の基本である協働の着眼点について学びます。
- 食品事業者を取り巻く社会環境の変化や消費者意識の変化等を学びます。
- 協働の着眼点について、変化に合わせて見直す必要があるかを考えることで、企業行動について理解を深め、今後の取組への気付きを得ることを目的とします。

※「協働の着眼点」とは、食に携わる関係者が、それぞれの立場で、また連携して消費者の信頼を高めていくために着目すべき、食品事業者の行動のポイントです。「協働の着眼点」は、消費者の信頼向上に向けて共有されるべき食品事業者の取組の分野の大項目、食品事業者における課題をまとめた中項目、食品事業者の課題に対する対応をまとめた小項目からなる樹形図で示されます。詳細版では、さらに小項目の具体的実践方法を例で示した具体例を付記しています。

(2) 参加者

- 30代前半程度までの次代を担う若手社員を対象とします（FCPネットワーク参加者登録をしている企業・団体である必要があります）。
- 参加者は、1年間を通して成果を得るため、毎回の出席を基本とします。
- グループは、様々な視点での知見を深めることを目的とし、様々な所属部署の方々に構成します。例えば、品質管理、お客さまサービス、製造工場ライン等の各担当者、バイヤー、店舗部門責任者等です。

進め方②

(3) フォーラムの進め方

- 専門家による講義と、講義を聞いて感じた課題について、それぞれのグループ内で討議を行い、グループごとに最終成果物「環境の変化から協働の着眼点を考える」を作成していただきます。
- グループ内でコミュニケーションを取りながら共同作業にて課題の解決策を作り上げることで、相互の関係づくりを強化するため、最終成果物の作成作業をパソコンでの作業とせず、手作業で作成する紙芝居（5～6枚程度）とします。
- 1回1回を単発の会とはせず、各回の講義とグループ討議を積み上げて最終成果物を作成していく形式です。議論は、ファシリテーターが主導していきます。
 - * ファシリテーター：株式会社4CYCLE 代表取締役 田井中 慎氏
- 参加者間の親睦を深めるため、第1回・第5回フォーラム終了後、懇親会を予定しています。
- 工場見学などの企画も検討中です。

(4) 他勉強会

- 本フォーラムに参加された方には、更なる知見の蓄積ができるよう、平成30年度に開催される「FCP食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会」の開催案内をさせていただきます。

ファシリテーターご紹介



田井中 慎（たいなか しん）氏

プランナー / 株式会社 4 CYCLE 代表取締役 /
日本女子大学 講師

- 平成20年度、平成21年度
企業行動の情報発信研究会ファシリテーター
- 平成22年度、平成23年度
消費者との対話のあり方研究会ファシリテーター

- 最終成果物「環境の変化から協働の着眼点を考える」を作成するために、各参加者には、グループのメンバーと連携し、各回の課題に取り組んでいただきます。
- 各回のテーマや課題設定、専門家講義の講師の選定はファシリテーターと事務局が行います。
- 各回のテーマや課題に沿ったグループ討議と、最終成果物作成のためのグループでの作業は、ファシリテーターが主導していきます。

各回の内容①

第1回 インロダクションとワークショップ

- インロダクションとして、事務局より「FCPについて」「フォーラムの趣旨・概要について」「ベーシック16・協働の着眼点について」の説明を行います。
- ワークショップでは、自社の取組についてホームページ等を閲覧しながら各自ベーシック16を記入した後、グループごと共有、意見交換を行い、協働の着眼点についての理解を深めます。

第2回 専門家講義とワークショップ

- 事業者の方による講義を行い、食品事業者を取り巻く社会環境の変化や消費者意識の変化等と、事業者の課題・取組の変化について学びます。

講師：株式会社エンゲージメント・ファースト様、SOMPOLリスクアマネジメント株式会社様、ハウス食品グループ本社株式会社様

- ワークショップでは、グループごとに、FCP立ち上げからの10年の環境の変化を整理し、その変化と協働の着眼点(詳細版)を対比させながら、協働の着眼点の変化に対応できているかについて考えます。

第3回 専門家講義とワークショップ

- 事業者の方より、食の安全・信頼向上の先進的な取組を紹介していただきます。
(工場を見学させていただきながらの講義も検討中)
- ワークショップでは、協働の着眼点の小項目・具体例について、変化に合わせて見直す必要があるかをグループごとに考え(改善点を見つけ、改善策を考え、示す)、どのようなプレゼンテーションにするのかを考えます。

各回の内容②

第4回 最終成果物の作成(ワークショップのみ)

- 前回までのワークショップの内容を踏まえ、グループごと、はさみ、のり、ペン等を使って、紙芝居を作成します（紙芝居の構成は、①協働の着眼点の現状分析、②環境の変化、③協働の着眼点を見直す必要があるか（あれば、改善点）、④その項目のベシック16記入例等を想定しています）。
- プレゼンテーションに向けて、紙芝居に沿って原稿を作成します。
- 分かりやすい言葉、図で構成で表現されているかを最終的に確認し、次回のプレゼンテーションまでの打合せを行います。

第5回 最終成果物の発表と本フォーラム総括

- グループごと、最終成果物「環境の変化から協働の着眼点を考える」のプレゼンテーションを行います。
- その後、それぞれのグループの成果物・プレゼンテーションに対して、第5回の参加者による投票を行います。
- 本勉強会の総括として、全体を振り返り、グループごとにディスカッションを行います。

活動・成果報告会

- 平成30年度FCP活動・成果報告会において、本フォーラムの報告を行うとともに、第5回フォーラムにおける投票結果の発表と表彰を行います。また、表彰されたグループには、最終成果物のプレゼンテーションを行っていただきます。

スケジュール (案)

第 1 回
7 / 6 (金)

イントロダクション

1. FCPの説明
2. フォーラムの趣旨・概要
3. ベーシック16・協働の着眼点

第 2 回
9 / 7 (金)

専門家講義

1. 社会環境・消費者意識の変化
2. 事業者の課題変化
3. 事業者の取組変化

第 3 回
10 / 12 (金)

専門家講義

食の安全・信頼向上の先進的な事業者取組事例を紹介

第 4 回
11 / 16 (金)

ワークショップ

「制作作業」

- ・紙芝居を作成
- ・プレゼン原稿を作成

第 5 回
1 / 18 (金)

プレゼンテーション

- ・紙芝居
プレゼンテーション

ワークショップ

「イントロダクション」

ベーシック16を書いてみる

ワークショップ

「10年間の環境変化と協働の着眼点」

- ・ 10年での変化を整理
- ・ 協働の着眼点の課題を考える

ワークショップ

「協働の着眼点を考える」

- ・ 協働の着眼点の小項目・具体例について、見直す必要があるかを考える
- ・ プレゼンの構成を考える

13:30-
17:30

後 懇親会

10:00-
16:30

10:30-
17:00

13:30-
17:30

13:30-
18:00

後 懇親会

(参考) 第5回プレゼンテーション 昨年実施風景



(参考) FCP活動・成果報告会 昨年実施風景

